

No.	書名	著(編)者名	出版社	ISBN 又は 出版年	推薦者資格・氏名		選書で想定する対象者			推薦理由 (200文字前後を目安)	推薦書に関連する図書の情報(3～5冊程度)				備考			
							学 年	配架(希望)先			書名	著(編)者名	出版社	ISBN 又は 出版年				
								駿河台校舎	船橋校舎									
1	体操の近代日本史	木下秀明	不昧堂出版	2015	准教授	服部 英恵				「体育」と「スポーツ」は別物です。体育の手段の一つとされた「スポーツ(sport)」の中の複数の競技的な戸外運動種目だけが別の世界を形成して「スポーツ」と呼ばれます。近代日本では、まず「体育」から始まりました。その体育の歴史の主流であり続けてきた体操には、からだづくりの教育分野と競技に集約されるスポーツ分野とがあります。本書は、近代日本における一世紀半にわたる体操の歴史を総括し、図版とともに一冊にまとめたものです。	1	スポーツの近代日本史	木下秀明	杏林書院 体育の科学社	1970	「スポーツの近代日本史」は売り切れで手に入らないようですが、推薦書に関連するので、一応記載しておきます。		
2	アイス神謡集	知里 幸恵 編訳	青空文庫	2008	教授	山口 雄仁				日本の先住民族の一つであるアイヌ民族の口承文学「カムイ・ユーカラ(神謡)」を、アイヌの少女：知里幸恵が美しい日本語に翻訳した訳詞集。特にこの訳詩集の序は名文として名高い。	1							
3	パパラギ はじめて文明を見た南海の酋長ツイアビの演説集	エーリツヒ・ショイルマン著、岡崎照男訳	ソフトバンク クリエイティブ	2009	教授	山口 雄仁				ヨーロッパを訪問したサモアの酋長ツイアビが、帰国後島民たちに西洋文明について語って聞かせた演説という形式で、西欧文明をユーモラスに批判している。時間に縛られた生活など、普段当たり前の事柄に、いつもと違う物の見方を与えてくれる。	1							
4	トーニオ・クレーガー 他1篇	トーマス・マン著、平野 卿子訳	河出文庫	2011	教授	山口 雄仁				この本に収録された「マリオと魔術師」では、ファシズム(全体主義)の陰が迫るイタリアの海岸の町を舞台に、インテリ層を含む民衆が煽動者にかたいたやすく洗脳されていくか、トーマス・マンが自分の体験を元に寓話的に描いている。ドイツでナチスが台頭する以前にファシズムの脅威を予見し、それに対する社会のよろさを描いた傑作である。	1							
5	動物農場	ジョージ・オーウェル著、高畠文夫訳	角川文庫	1995	教授	山口 雄仁				イギリスの農園で抑圧されていた動物たちが革命を起こし、飲んだくれの農場主を追い出して理想的な共和国を築こうとするが、指導者の豚が独裁者と化し、恐怖政治へ変貌していく過程を描く寓話小説である。スペイン内戦に自ら参加した体験を持つ著者が、人間を豚や馬などの動物に見立てることにより、20世紀前半に台頭した全体主義やスターリン主義に痛烈な批判を加えている。	1							

6	カタロニア讃歌	ジョージ・オーウェル 著、都築 忠七訳	岩波文庫	1992	教授	山口 雄仁				スペイン内戦で著者自身が人民戦線側義勇軍として従軍した体験を描いたもので、フランコ將軍指揮下の反乱軍(ファシスト軍)との戦いの模様や、バルセロナで起きた人民戦線内部の内紛・市街戦などを自らの経験を中心に語り、戦争の現実を飾らない文体で克明に描写したルポルタージュ文学の傑作である。人民戦線側を内紛に導いたスターリン主義と非人間的な政党政治への強烈な批判と、そんな中でも人間味を失わないスペイン人・カタロニア人に対する著者の愛情と尊敬には強い印象を受ける。	1							
											2							
											3							
											4							
											5							
7	ちょっとピンぼけ	ロバート・キャパ著、 川添 浩 史・井上 清一訳	文春文庫	1979	教授	山口 雄仁				従軍カメラマンとして常に最前線で戦争の現実を追いつけた著者の半生を描いた自伝である。特に第二次世界大戦におけるノルマンジー上陸作戦からパリ奪回にいたる物語は、その場に居合わせた者でなければ決して語り得ない印象深いものである。	1							
											2							
											3							
											4							
											5							
8	「なぜ人はニセ科学を信じるのか」1 - 奇妙な論理が蔓延するとき -	マイクル・シャーマン 著、岡田 靖史訳	早川書房 〈ハヤカワ 文庫 NF〉	2003	教授	山口 雄仁				「懐疑主義」を標榜する著者が、占星術や心靈現象、宇宙人による誘拐、歴史の意図的改ざんなど、科学の仮面をかぶった「ニセ科学」の問題を明快に論じ、そうしたニセ科学に影響されがちな社会に警鐘を鳴らしている。	1	「なぜ人はニセ科学を信じるのか」2 - 歪曲をたくらむ人々 -	マイクル・シャーマン著、岡田 靖史訳	早川書房 〈ハヤカワ 文庫 NF〉	2003			
											2							
											3							
											4							
											5							
9	日本人の英語	マーク・ピーターセン 著	岩波新書	1988	教授	山口 雄仁				日本人と英米人との語学感覚のずれを徹底分析し、日本人に合った英語表現についてわかりやすく解説している。ユーモア溢れる解説は楽しく、かつ奥が深い。日本語と英語の両方に通じた著者ならではの視点で、それまでになかった英語習得の近道が示されている。	1	続 日本人の英語	マーク・ピーターセン著	岩波新書	1990			
											2							
											3							
											4							
											5							
10	数学ガール	結城 浩	ソフトバンク クリエイティブ	2007	教授	山口 雄仁				数学が趣味の高校2年生「僕」と同じく数学を趣味とするクラスメートのミルカ、数学に興味を持つ後輩のテトラたちが、高校数学の延長から過去の超難問まで様々な問題を解きながら、数学の世界を旅していく。小説のように話が展開していくが、実際は数学の問題を解く部分が大半で、見方によっては一般向け数学書とも言える。現在までに本書を含めて「フェルマーの最終定理」などシリーズ5作や、それらのコミック版も発表されている。	1							
											2							
											3							
											4							
											5							
11	世にも美しい数学入門	小川 洋子・藤原 正彦 対談	ちくまプリ マー新書	2005	教授	山口 雄仁				数学者である藤原正彦に作家の小川洋子が話を聞く形で、数学の魅力や著名な数学者のエピソードなどをわかりやすく紹介しており、数学の面白さに触れることができる。	1							
											2							
											3							
											4							

12	「心でっかちな日本人」― 集団主義文化という幻想 ―	山岸 俊男	筑摩書房 〈ちくま文庫〉	2010	教授	山口 雄仁				「いじめをする子どもは他人に対する思いやりの心が欠けている」のように、個人の行動の原因を心の問題に矮小化する「心でっかち」な物の見方に警鐘を鳴らし、社会心理学的立場から社会と個人の関わりを分析して、問題解決の新たな方向性を提示している。	1					
											2					
											3					
											4					
											5					
13	愛は脳を活性化する	松本 元 著	岩波書店 〈岩波科学ライブラリー〉	1996	教授	山口 雄仁				現在のコンピュータの情報処理機構（ノイマン型）と脳の情報処理機構（非ノイマン型）の間にはどのような原理的相違があるのか解説した上で、「仮説立証主義」など脳の情報処理の特性や、「心を持つ」脳型コンピュータの開発などについてわかりやすく紹介している。	1					
											2					
											3					
											4					
											5					